

第7回ワーキンググループ議事録

1113

日時 2013年10月17日(木) 音楽室 19:05~20:45

参加者 都築徳紀、靱山勝人、山田美代子、山田亮、青山恵、池田真子、伊東江利子、
(順不同) 浦川正、大島令子、近藤均、
〔世話人会〕生田創、加藤良行、島田善規、広中省子、山崎沙知 15名

メンバー31: 第7回ワーキンググループ(以下WG)を始めます。今日は「テーマの深掘り」です。前回のアンケートをもとに、世話人でキーワードをグループ分けし整理しました。経過を生田から、資料の詳細をメンバー2さんからご説明します。

メンバー2: みなさん13人のアンケートから、世話人会で時間をかけて作業し、あそこに作業したものを広げてありますが、客観的に言いたいことだと思われるキーワードを73個拾い上げ、73個のキーワードの中から似たものを集めて27個にグループ化しました。更に27個のグループから5個のグループにまとめました。それを全部できるだけ取り上げたい。この5つのテーマのうち、どれから話し合うべきテーマとするかの順番を決めていきたいと思います。では、資料の詳細をメンバー20さんから。

メンバー20: ほとんど紹介されてしまいましたが、資料の説明を。P.2(資料1)で今日とこれからの流れを説明しています。6回で自由記述のアンケートでテーマの案を出してもらった。今日はふたつ話し合ってほしい。一つはキーワードのグループ化。もう一つはその中から今後話し合う議題を決めていただく。話がうまく進めば、今日は意見も出るだろうから、こんご表現を調整して、第8回の冒頭に議題を確認し、実際に話し合いに入れたらと思います。

P.3で今日の資料の校正と作成した過程を、P.4で作業時に注意した事を記載。

P.5~(資料3)で各メンバーのアンケートからキーワードを抽出し、P.11~(資料4)で小グループ化し、小ラベルをつけた。更にP.15~(資料5)で小グループ同士を関連づけて中グループ化し、中ラベルを付けた。P.19~(資料6)は、議題の案と、資料5の図を文章化したものです。

ここで、世話人会からの提案ですが、この中グループの5つを全てテーマ、議題とし、今後順次話し合うことを提案したい。この5つで良いとなれば、次に、今日はどれを最初に話し合うかを決めていただきたい。

メンバー31: ここまでで、不明な点などありますか。

メンバー21: P.5のメンバー17さんの「金沢の文化(成功例)に学ぶ」と言うのは、市民が学ぶのではなく、WGが学ぶと言う意味ではないのか?メンバー17さんはどう思われますか?

メンバー17: 前回の清水先生のお話を聞いて、金沢の成功例を我々WGが学んではどうかと思って書いたが、大きい意味でとらえるか狭い意味でとらえるかの違いで、勉強することが大事ということだ。

メンバー21: 我々が学ぶのと、市民が学ぶということは意味が違う。

メンバー31: このまま小グループにしていいか。

メンバー17: このままの分類で良いです。メンバー14さんの「学ぶ楽しさ=観るだけじゃない」

と言う考えは大切だと思う。ただ聞くだけでなく、公演や展示に関するレクチャーや講演などは理解が深まり良いと思う。

メンバー21：P. 17 の 4 で「活発な文化活動と市民優先予約制度」と言うくくりは強引ではないか？

メンバー31：ひとつにまとめるのが強引ということですか。

メンバー21：活発な文化活動と市民優先予約制度は結び付けなきゃいけないのか。

メンバー31：文化活動が活発だからこそ利用者が多い、市内市外の人が多く利用する、それでホールの予約が取れない問題が発生しているので、無関係ではないのでは。

メンバー21：会場の予約が多いからと言って、文化活動が活発ということにはならない。文化を文化の家での活動に限定するかのように誤解を招く恐れがあるのではないか。すべて会場のせいにするのか。

メンバー31：会場のせいにはしていない。ここは文化の家についての話合いなので、文化の家での活動と言う範囲にした。

メンバー21：マスタープラン（以下 MP）の内容や、前回の清水先生のお話しでも、「活発な文化活動」は「文化の家」での活動に限ってはいない広い話だ。

メンバー31：そのとおり先生は広い話しだった。

メンバー21：文化の家に限った先入観を与えるから、おかしいのではないか。文化活動イコール会場利用ではないだろう。

メンバー32：ラベルの名前だけの話では。場所が足りないと言うことがあるので、ハード面の使い方という意味を分類に含めては？

メンバー2：「市民優先予約制度」と「活発な文化活動」にずれがある？

メンバー31：ずれがあるなら「活発な文化活動」を変えてもいい。

メンバー21：変えるべきだと思う。

メンバー31：中ラベルは世話人の方で付けたので、変えることはやぶさかでない。

メンバー17：ふたつの順番を変えたら？

メンバー34：単純に施設の利用状況ということではないか。この小ラベルにはソフト面の話が含まれていない。「活発な文化活動によって不足している施設利用と市民優先予約制度」、長くするならそういうこと。「活発な文化活動」だけだと、ここには内容的なものが入ってないので違和感はある。「施設」に中ラベルを変えては。

メンバー31：では、P. 17 の中ラベル④を「施設利用と市民優先予約制度」に修正で良いですか？
一同：良い。しっくりきました。

メンバー31：他にはご意見よろしかったですか？この5つのテーマで、皆さんの意見はすべて含まれ、議論していくことになる。では、話し合う順番に移りたいと思います。

メンバー20：提案ですが、今日、1～5の中ラベルの順番をすべて決める必要はないと考えています。今日最初の議題だけ決めて、2番目はいずれまた話しあってもらおう。ラベル④を最初の議題にしてはどうか提案したい。理由は、アンケートでも6件と多数の方の関心を集めたこと。またこの案件は試行期間と言う時間・期限が限られている、その後本格実施をどうするかどうか検討されるが、もし市民の意見を反映させる必要があるなら、それに間に合うように言わなければ意味がなくなってしまう。「市民優先予約制度」（以下市民優先）から話すことにしてはいかがでしょうか。

メンバー21：WGが市民優先を判断する機関かどうか疑問に思う。

メンバー 31 : WG で判断するかどうかということですか。

メンバー 21 : その前に文化のありかたを議論しないといけない。その部分だけ討議してはおかしい。時間がないということは、WG の議題を決定するうえで関係ないことではないか。

市民優先はアンケートで 6 件だったが、他にも 6 件 7 件の多数派の意見はある。これは多数決の話ではない。「長久手市の文化行政と文化の家のあるべき姿」など、文化のあるべき姿を話してから、はじめて市民優先について議論できるのではないか。順番が本末転倒。市民を優先するかどうかは、文化のあり方の話が先でないと判断できない。

メンバー 27 : 前回配布の資料で、市民優先について運営委員会でどのような議論がされたのかを初めて知った。企画委員会でその話は全くされていないのであということになっているとは知らなかった。WG に参加してくださいと言われ、企画委員だから出た。出てみたら皆さんが様々な目的で参加していて、言いつばなしでなく、ちゃんと汗もかく覚悟で会議が進んだので驚き、だんだん本気になった。さらにあの資料を見て初めて、市民の声を聞いた市長の意向を受けて、運営委員会で論議しないまま事務局があ制度をつくってしまったことが分かった。その流れの中から、事務局がこういう市民の話合いの場が必要だと考えて、WG がそのために発足したとわかった。だとしたらこの問題について市民の声をどこかで反映させなきゃいけない。ここで出た意見で判断する訳でも決めるわけでもないが、市民の意見を参考にして誰かが判断し決定するのだとしたら、ここに集まった継続して文化活動をしている人、関心を持っている人の意見は、重みがある。その意見が反映されないのは、かえって不自然な気がする。

メンバー 21 : WG で市民優先について話し合うことに反対はしないが、今の時点で、それを先にやらなければいけないか。

メンバー 27 : 試行期間があって、試行のあと何らかの結論を出すのか。

メンバー 29 : 試行は 1 年なので、1 年の間に何らかの結論を出して行くということになる。

メンバー 27 : だとしたら、どこかで市民の声を聞きたいのであれば、ここはその市民の声を出して行く場所として意味がある。その役割を果たすべきだ。

メンバー 20 : 一口に「文化のあり方」と言っても、出たキーワードだけでも 73 個。もっといろんな意見があるはずで、文化のあり方と言ったとたんに全部含まれる。議題として全部扱うけれども、グループに分けて順番に話し合えましょうと提案している。文化のあり方というメンバー 21 さんの意見は、グループ分けなしで全部話し合えましょうと同じで、ものすごく時間がかかる。そのあとようやく市民優先の話になったとして、その前にどこかで市民優先の本格実施が決まってしまうたら、せっかくここで文化のあり方について話し合って、市民優先について皆さんの意見をまとめたとしても、それが一切反映しないまま決まってしまうことになる。それは市民参加のあり方として正常な話ではない。

メンバー 34 : メンバー 21 さんの大きなテーマから話すべきと言う意見もわかるし、メンバー 27 さんの言うこともわかる。普通は大きなことから小さなことへ話すのが自然のこと。でも、私の知らないところでいろんなことが決まってしまう。市民優先がいつかどこかで絶対やらなきゃいけないことであるなら、ここでやるのが一つの方法。やらなきゃいけないことなら、さっと早くやってしまった方が良いのではないか。

私は、このテーマは多分そんなに長くかからないと思う。WG で文化はこうあるべきだ

とゆっくり時間をかけて結論を出したとしても、その頃には試行期間が終わってしまっていて、もしかするとここで話合ったこととは相容れない存在として、市民優先が定着してしまうかもしれない。それなら、先に話しておいた方が良いと思う。ここはそれを話し合う場だったのかと思う部分はあるけれども、どうせやるなら早くやってすっきりして、次の話しに行けたらいいと思う。

メンバー 21：WG は 5 万人の市民のうち、たかだか十数人の我々の意見でしかなく、しかも市民優先について話し合う人を募ったメンバーではない。長久手市の文化行政のあり方が決まらないと、市民優先の話しは決めることができないだろう。

メンバー 34：そのとおりだが、このままでは 5 万人分の十数人の意見すら聞かれることなく制度が決定してしまうかもしれない。文化行政の在り方のみんなの意見と、市民優先がずれると、みんな薄々感じていると思いませんか。ずれるのかどうなのか結論はわからないが、先にはっきりさせておこうよとなる。やっぱり平等であるべきだとなつてから、市民優先を話しあおうとなつても、それが試行期間が終わって実施されてからでは遅いというのも現実で、タイムリミットはある。

メンバー 21：それならば、私は決めることを辞退します。市民の意見も聞いていないし、文化に行政がどのように関わるのかが決まっていな。どうあるべきかについて僕はわからないから、市民優先を語る事はできない。

メンバー 32：私はそもそも論をよく言うので迷惑をかけているので、メンバー 21 さんの意見もわかるが、あるひとつの事をつきつめる事で、たとえばある作曲家を分析しつくしていくと、逆にそこから多くの側面で深く考える事につながる場合もあるのではないかな。小さな問題から入ってもそもそも論のような深みが出てくる。簡単に答えが出るものではないかもしれないが、市民優先は文化のあり方を多角的に考えるには良いテーマかもしれない。時間がかかると思うし、極端には結論は出ないかもしれないが、人間とは何かかわかるかも知れない。これをやりつくすというのはありうる。

メンバー 12：市民優先は運営委員会にいきなり提案された。文化の家は劇場法や MP の理念を実現してきた。市民優先は市民からの要望に市長が応えてできた制度だと思う。それでこの WG もできた。この制度を作るきっかけとなったと思われる人に 15 人、前回の MP の勉強会に出席してもらって、こんなんだよとわかってもらったところ、議事録にもあるように「俺たちが優先予約で良かったのかな」と感想が出ました。私も最初はメンバー 21 さんのようにあるべき姿から話したかったけれど、そういう流れを考えると、市民優先についての WG の意見も聞きたいと思った。

メンバー 21：市長がどうのは、あまり関係がない。住民参加という意味では住民の意見でやるというのは、MP でも同じ。テーマを決めるのはいいが、順序が逆だと言っている。とことんとは言ってなくてどこで妥協するかだが、本来の公平性とは違う、こういう引っ張られた進め方に危機感を感じる。

メンバー 34：メンバー 21 さんが、それを話す場のつもりではなかったと言ったが、だからこそ良いのでは。市民優先について話す会だといって人を集めたら、圧倒的に優先してほしいと思う人ばかり来て、それでは歪められてしまう。何とも思っていない人は来なくて、その事について意見があり物申したい人が多く参加して、意見を通したいがために議論が捻じ曲げられる事も起こり得るのでは。この場では割と片寄らない公平な意見を出しやすいのでは。時間がかからないかもと言ったのは、ここは決定機関ではないの

で、こういう意見もあります、こういう意見が多いですと、なんとなく皆の意見が出ましたとまとめればよいのでは。結果がどうなるとか、何か決定するとか、こうあるべきだとかまではやる必要はない。WGの早い段階に、どういう意見が出るのかということはやってみる価値がある。

メンバー 17：情緒的になったり、観念的になったりしてはいけない。議論を進めるには、優先予約の成り立ちやいかに予約が取れないかと言う現状などの詳しい根拠、データが無いと、説得力がない。観念的感情的な話をしても結論は出ない。データがないと、あるべき姿やあるべき予約制度が見えてこないのでは。メンバー 21 さんのいう「あるべき姿」を描いて、現状把握をして、データで示さないと解決策につながっていかない。我々はこう思うだけでは空論に終わってしまいそうなので、それでいいのかなと思う。この問題は、文化行政のあるべき姿に軌道修正しないと、すぐ解決できるとは思っていないで、あるべき論をきっちり押えて議論していくべきだ。

メンバー 20：メンバー 17 さんが言うように、いろんな資料や情報をもとに話さなきゃいけないが、テーマが絞られていないから、市民優先の資料でさえ、少し出たが、議題と決まっていないから、皆さんに十分な資料を提示できない状態。卵が先か、ニワトリが先かに似ている。

メンバー 17：データと言い過ぎたかもしれないが、推測、憶測の議論になっていないかと言いたかった。

メンバー 27：会場が取れないと言う問題は、データという以前に現実としてあるので、データはすぐに出せるでしょう。問題は、その状況を解決するのが、本当にこの市民優先制度なのかどうかということ。よその人が来るから取れない、だから優先をとっているけれども、市外の人の利用が多いからなのか？ 実際は、抽選会に行っても公用の行事で押さえられていて抽選の対象になっている土日が少ないからなのでは？ いろんな問題が絡みあっている。自主事業を年間で百何十事業やっていればそうなる。

メンバー 17：市民優先団体ではなく、市民枠を作ると言う議論はされなかったのか？

メンバー 27：そのような、どうやって解決するか議論がまったく無いのに、いきなりバンと今の制度ができた。企画委員会に意見を聞かれれば、意見を出せたのに。それなしにあれが出てしまったことが問題。

メンバー 12：いきなり出てきたという話しは運営委員会の資料を読むと出ている。実態は長久手フィルも練習場所が取れない。他の自治体のオーケストラは練習場所が確保されていることもあるが、長久手フィルは練習場所を探してさまよっている。そんな風だから、市民優先という声が出てきた。それをある日トップの人が見て、これは何だとなって、それでこんな形で出てきてしまった。

メンバー 17：そのような場所が取れない実績を積み上げれば、説得力が出るのでは。

メンバー 34：市民優先について話すとなると、この話は、文化の家の運営を貸し館中心に寄せるのか、自主事業に寄せるのか、と言う話になる。優先という方向は、借りられないから自主事業を減らして、貸館中心に行くという方向になる。市民優先について話し合うということは、この問題についてどう思うかにもなる。個人的には、自主事業で良い事業をいっぱいやって、それを見に行きたい。貸館の個人の発表会よりも、個人レベルでは呼べないような演者を連れてくる公演を見たいので、自主事業に重きを置いてほしい。貸館中心のホールはあるが、それは自治体の財政が限られていてそ

うなっているのでは。

メンバー31：他に今日発言されていない方のご意見も。メンバー5さんいかがですか？

メンバー5：急に決まった話ならば、早めに話し合った方が良いでしょう。

メンバー15：メンバー32さんの発言に同意します。市民優先を議論することで、あるべき姿が見えてくるのではないかと。どこを切り口にするかということではないかと。あるべき論は時間がかかる。市民優先は降ってわいた話で、ここでも批判的な意見が出ている。それを切り口にしてやっていけば、現状全体が見えてくるのではと感じる。市民参画は大きなすべてのテーマにつながる。今文化の家を評価しなきゃいかんというところにも来ている。制度を議論することを通じて、あるべき姿を議論できるのでは。

メンバー31：ではこれより10分の休憩にします。

－ 休憩 －

メンバー31：では、再開します。市民優先をテーマとするか、もっと大きく文化の家をとらえたテーマとするか。

引き続き、今日まだ発言されていない方を。メンバー3さんいかがですか？

メンバー3：今まで参加していて、話題が散漫としていたのが気になっていました。テーマを絞ってデータをもとに話し合うのは良いこと。2時間話し合ってから振り返って、何について話していたのかよくわからない回もあった。

質問ですが、見かけは自主事業として貸し館をするような、貸し館だけど自主事業扱いのような仕組みはないんですか？

メンバー2：貸し館提携や、事業倶楽部事業などの仕組みはあります。実施公演数は多くはありませんが。

メンバー20：せっかく職員もひとつの輪になって同じテーブルについているのは大事なことで、言いにくい面もあるかもしれないが、意見を聞きたい。

メンバー2：みなさんの前回のアンケート、キーワードをじっくり読んで、今回の整理作業をしました。5つになったけれど、どのキーワードでも、あらゆるテーマカテゴリーに分類しようと思いました。それだけ、どのキーワードも密接に関係しあっている状態。どこから入っても、全部に行くと実感した。何かとっかかりは必要で、市民優先のテーマで話し合うことは、文化の家、MPの理念の核心にも触れることになるのかもしれない。

メンバー30：5万人分の十数人と言う発言があつたが、確かに広く聞いてはいないが、その十数人でも市民優先について今日話ただけでも既に色々な意見が出ている。これから、解決につながる、使いやすくなる新しい意見が出るのではないかと期待している。

メンバー31：正直に言うと制度を決めた側として、心苦しい思いでした。作った側からしても、市民の皆さんの意見を聞いてこれからの制度を作っていきたいと思うので、どんな意見でも、とにかく色々な意見を聞きたい。気づくことが多いので、市民優先についていろいろ聞きたい。

メンバー10：7月に文化の家に来る前から市民優先の試行が始まっていたので、個人的にも、今後どのように話し合われるか興味があります。

メンバー21さんは、市民優先について話したくないわけではなく、話す順番にこだわりがあるんだと思いますが、きっかけとなるキーワードはあると思う。前回の清水先生の話で、市民優先問題に対するヒントをたくさんもらったように感じたので、鉄は熱

いうちに打てじゃないですが、記憶が鮮明なうちに、時間がたって忘れないうちに、市民優先をテーマにしてはどうかと思う。

メンバー29：文化の家が開館して15年、順風満帆だった。多少の振れはあったが、取組みについて全国的な評価も得た。しかし、市民優先で初めてつまづいた。最初は小さな石かと思ったら、大きな岩だった。文化の理念を話さなきゃいけないが、岩をどけてから先に進むと、より深く文化の理念やあり方について話せると思う。

メンバー31：では、テーマについて更にご意見は。

メンバー21：言いたいことは言いました。メンバー2さんの言うように、どのテーマからでも文化のあり方の話に行きつくのでしょうか。当面の課題から話せば、僕の話しも含まれてくるので、そういう形でも構わない。

メンバー17：その議論が終わってからでもいいのですが、この中で、生まれも育ちも長久手の人は？→3～4人

長久手の文化のベースを知る機会を設けるのも良いかと思います。小林さんや中野さんのお話を聞いてみては。

メンバー12：文化協会に所属する郷土史研究会の方ですね。文化協会内では研修などで話を聞く機会があります。みなさんもぜひ文化協会へ。

メンバー20：今日のWGで、どのテーマから入ってもどの方向にも行きつく、密接に絡み合っていると感じた。実務的になるが、資料を出し、話を進める順番を提案しています。今日話し合っていて、大筋ご了解いただいたと思います。表現の修正は世話人会で整理して次回あらためて出します。次回からは市民優先の議題を入りに、文化の家の全体を眺めていただくのでよろしくお願いいたします。

メンバー31：では、皆さんご同意いただける、次回から話し合う最初のテーマは「施設利用と市民優先予約制度」についてということでしょうか。

一同：了承

メンバー31：では、次回から市民優先を。他には何かありますか。

メンバー20：実務的な事ですが、P.21～の議事録が、参加者も発言者もナンバー表記になっているが、参加者名簿は実名を出す、具体的な発言はナンバー表記にしても良いですか？

一同：了承

メンバー20：WGを見学・傍聴したいと言う声を聞いている。受け入れて良いか。

一同：了承

メンバー31：用意した議題は以上ですが、何かあれば。

メンバー29：県内に色々な文化会館がある。WGで視察にも行けたら良いと思う。

メンバー31：アンケートは10/22（火）朝までに提出をお願いします。次回WGは11/21（木）19：00～美術室で開催します。文化の家にたくさんある部屋を見てもらえるように色々な部屋で開催しています。

それでは以上で終了します。おつかれさまでした。